



おおいし かずひろ
大石 和博

職 名 准教授

担当科目 ミクロ経済学Ⅰ，マクロ経済学Ⅰ，
環境経済学Ⅰ など

専門分野 進化経済学，環境経済学，資源経済学

研究テーマ 環境問題における協力行動習慣の進化ゲーム理論的分析

(1) 事業者の自主的環境取り組みの効果

直接規制的手段や経済的手段など政府主導の環境政策には限界があり、これを補完あるいは代替する政策手段として、企業や産業界の自主的環境取り組みが注目されている。企業が自主的環境取り組みを行う動機の一つは、自社製品（生産物）の需要増加により利潤を得ようとすることである。環境意識の高い消費者が多い市場では環境に配慮した製品の購入量が増加する可能性がある。自然観光における観光事業者の自主的環境取り組みについても同様の効果が期待されている。そこで、観光事業者の収入の大きさが環境経営や環境戦略によって異なる場合を想定し、自然観光における観光事業者の自主的環境取り組みを進化ゲーム理論の枠組みで分析した。

(2) 生態系サービスの支払い制度の長期的効率性

現代の環境問題の特徴の一つは時間を通じた次世代への影響であり、生態系の構造と機能を損なわないように自然資源を持続的に利用することが課題となっている。長期的視点に立って、自然資源の公益的機能と経済的機能を考慮し、保全と利用との調和を達成させる対策を講ずる必要がある。こうした観点から、環境政策の一手段として、生態系サービスへの支払いPayments for Ecosystem (or Environmental) Services (PES) という概念が注目されている。そこで、自然資源を限定的に利用した場合にかぎり金銭的補償を受け取ることができると想定し、PES制度の効果を進化ゲーム理論の枠組みで分析した。

研究業績

著書	1999年11月	現代財政の研究（共著・中央大学出版部）
論文	2007年3月	リアルオプション・アプローチによる地域観光開発の意思決定（『宇都宮共和大学論叢』第8号）
	2012年3月	進化的意思決定による再生可能資源の利用と社会規範の効果（『宇都宮共和大学論叢』第13号）
	2012年3月	環境政策の時間非整合性と企業の模倣学習（『宇都宮共和大学論叢』第13号）
	2013年3月	自然観光における観光事業者の自主的環境取り組みと技術進歩の効果（『宇都宮共和大学論叢』第14号）
	2014年3月	進化的枠組みにおける再生可能資源の持続的利用と生態系サービスへの支払い制度の効果（『宇都宮共和大学論叢』第15号）
	2015年3月	生物資源の利用と税の所得分配効果（『宇都宮共和大学論叢』第16号）

略歴	2000年3月	中央大学大学院経済学研究科博士後期課程退学
	2000年4月	那須大学都市経済学部専任講師
	2006年4月	宇都宮共和大学シテライフ学部専任講師（大学名称等変更）
	2015年4月	宇都宮共和大学シテライフ学部准教授（～現在に至る）

所属学会 日本財政学会

外部競争的 文部科学省科学研究費

資金の受入 (1)平成 15 年度～17 年度，基盤研究(C)，研究分担者(研究代表者:藪田雅弘)，「地域環境財の保全と地域開発の両立を保障する地域環境政策の検討」(課題番号 15510032)
(2)平成 18 年度～20 年度，基盤研究(C)，研究分担者(研究代表者:藪田雅弘)，「エコツーリズムによる環境保全型地域開発の展開可能性に関する研究」(課題番号 18510034)

社会的活動 平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月 那須塩原市廃棄物減量等推進審議会委員
平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月 那須塩原市廃棄物減量等推進審議会委員

自己アピール 講義では、トレードオフや機会費用といった経済学のアイディアを使って、身の回りで起きている社会現象を考えてみたいと思います。